

《歴史家ワークショップ 2016～19 年度活動実績》

本事業はユニークでシームレスな支援を通じて歴史学研究者の研究能力と発信力を高め、国際的にも評価される高度な研究成果を社会に還元することを目指し、**1) 国際発信力強化、2) 知識共有・ピアサポート、3) 社会との成果共有**を活動の柱として、以下の活動を行いました。

2017 年度より一般財団法人中辻創智社および一般社団法人東京倶楽部のご支援を受け、「リサーチ・ショウケース」「特別ワークショップ」を継続実施しています。また、2019 年度からは東京大学教育研究経費を受けています。

☆ 氏名の後ろのカッコ内はそれぞれの活動実施当時の所属等を示し、「・院」は大学院生です。

☆ 活動詳細は <https://historiansworkshop.org/> をご参照ください。

1) 国際発信力強化

リサーチ・ショウケース

リサーチ・ショウケースは、自らが取り組んでいる研究を 8 分間にまとめて外国語で発表し 7 分間で質疑応答を行う形式の、大学院生の国際的発信力を高めるためのワークショップです。発表者は事前に査読者 2 名から原稿に対するフィードバックを得ることができ、参加者の投票により優秀発表者に賞が授与されます。

査読者（レビューアー）には、リサーチ・ショウケースの過去の発表者を中心に多くの若手研究者が参加し、彼らが査読者のプール（「レビューアーズ・カレッジ」）を形成するまでになりました。査読者である若手研究者は英語論文の出版や査読経験を持つ教員とペアで査読を行うことで、コメントのしただけでなく、同僚・後輩を支え合うことの大切さについても学びました。

2016～2019 年度に大阪大学・京都大学・名古屋大学等との共催で全国展開された英語版プログラムでは、以下の 10 回の開催で総計 72 名が発表参加し、その後の国際学会での受賞やテニユア・トラック・ポジションの獲得といった成果が生まれています。

【企画・運営】【第 1 回】山本浩司（東京大学）【第 2 回】赤江雄一（慶應義塾大学），正木慶介（早稲田大学），山本浩司（東京大学）【第 3 回】赤江雄一（慶應義塾大学），松本 涼（福井県立大学），吉川弘晃（京都大学・院），春日あゆか（京都大学），正木慶介（早稲田大学），山本浩司（東京大学）

【第 4 回】春日あゆか（京都大学），川本悠紀子（同志社大学），山本浩司（東京大学），吉川弘晃（京都大学・院）【第 5 回】山本浩司（東京大学）【第 6 回】赤江雄一（慶應義塾大学），小風尚樹（東京大学・院），槇野翔（東京大学・院），正木慶介（愛知県立大学），山本浩司（東京大学）【第 7 回】ピエール＝イブ・ドンゼ（大阪大学），山本浩司（東京大学）【第 8 回】市川佳世子（慶應義塾大学），山本浩司（東京大学）【第 9 回】スティーブン・アイビンス（京都大学），ピエール＝イブ・ドンゼ），久野愛（京都大学），山本浩司（東京大学）【第 10 回】ネイスン・ホプソン（名古屋大学），黄霄龍（東京大学），山本浩司（東京大学）

- ・第1回リサーチ・ショウケース (2016年7月28日、於東京大学、発表者8名/参加者20名)
- ・第2回リサーチ・ショウケース (2016年11月30日、於東京大学、発表者6名/参加者30名)
- ・第3回《西洋中世学会版》リサーチ・ショウケース (2017年3月9日、於東京大学、発表者6名/参加者30名)
- ・第4回リサーチ・ショウケース (2017年3月12日、於京都大学、発表者5名/参加者15名)
- ・第5回リサーチ・ショウケース (2018年2月22日、於東京大学、発表者7名/参加者30名)
ゲストコメンテーター：マリア・ピア・パガネリ (トリニティ大学), 井野瀬久美恵 (甲南大学)
- ・第6回リサーチ・ショウケース (2018年7月27日、於東京大学、発表者7名/参加者25名)
ゲストコメンテーター：太田淳 (慶應義塾大学)
- ・第7回リサーチ・ショウケース (2019年2月14日、於大阪大学、発表者7名/参加者30名)
司会：久野愛 (京都大学), スティーブン・アイビンス (京都大学)
- ・第8回リサーチ・ショウケース (2019年8月1日、於東京大学、発表者7名/参加者31名)
司会：市川佳世子 (慶應義塾大学)
ゲストコメンテーター：ピエール＝イブ・ドンゼ (大阪大学)
- ・第9回リサーチ・ショウケース (2019年10月11日、於京都大学、発表者9名/参加者33名)
司会：スティーブン・アイビンス (京都大学), 久野愛 (京都大学)
- ・第10回リサーチ・ショウケース (2020年2月18日、於名古屋大学、発表者10名/参加者24名)
司会：ネイスン・ホプソン (名古屋大学), ゲストコメンテーター：ジュリア・ヨング (法政大学)





Historikerwerkstatt in Osaka 2018

ドイツ現代史学会第41回大会の一部として、ドイツ語版リサーチ・ショウケースを開催しました。

【企画・運営】吉川弘晃（総合研究大学院大学・院），林祐一郎（京都大学・院）

・ **Historikerwerkstatt in Osaka 2018**（2018年9月22日、於大阪市立大学、発表者3名／参加者25名）

Early Career Conference

歴史学研究者が国際学術会合における研究発表と司会進行（チェア）の経験を積むことを目的に、「リサーチ・ショウケース」の過去の発表者たちが立ち上げたプログラムです。

【企画・運営】貝原伴寛（東京大学・院），照井敬生（東京大学・院）

・ **Early Career Conference 1**（2018年9月11日、於東京大学、発表者6名／参加者20名）



英文校閲ワークショップ

英語で書かれた参加者の原稿を対象として「読みやすさ」とその背景にある「ロジック」を読み解き、校閲スキルを磨くことで、質の高い推敲を自力で始められるようにすることを目的とするプログラムです。本ワークショップで推敲を受けた多くの原稿が海外の雑誌に受理され、国際学会で発表されています。各地で研究している大学院生・研究者に開かれたトレーニングの機会を提供することで、規模の比較的小さい研究領域でも国際化に必要な切磋琢磨が可能となっています。

【企画・運営】安平弦司（日本学術振興会／ユトレヒト大学），山本浩司（東京大学）

- ・第1期英文校閲ワークショップ（2017年10月3日～2018年5月29日、参加者各回10～15名）
- ・第1期原稿検討会（2018年6月26日～2019年7月29日、参加者各回約10名）
- ・第2期英文校閲ワークショップ・原稿検討会（2019年10月8日～2020年3月26日、参加者各回5～15名）

若手研究者国際交流事業

2019年12月から2020年2月にかけて、旅費の補助を行って若手研究者5名を海外に派遣し、現地の研究者との交流・学会参加・資料集め・フィールドワーク等を支援しました。派遣者と派遣先は以下のとおりです。

【企画・運営】池田真歩（北海学園大学），春日あゆか（広島大学），正木慶介（愛知県立大学），山本浩司（東京大学）

- ・北川涼太（広島大学・院）：イギリス・ウォルバーハンプトン大学
- ・平井正人（東京大学・院）：フランス・パリ（国際学会）
- ・奥田弦希（東京大学・院）：オーストリア・インスブルック大学／ザルツブルク大学
- ・水野良哉（慶應義塾大学・院）：イギリス・ケンブリッジ大学
- ・山田智輝（京都大学・院）：イギリス・ケンブリッジ大学

2) 知識共有・ピアサポート

成果発表のノウハウを共有するための各種「スキル・ワークショップ」や学会の年次大会に合わせた「特別ワークショップ」、他団体との共催プログラム等を企画・開催しました。

英語での単著（モノグラフ）出版、国際学会参加、国際雑誌論文投稿などに関する知識と体験を共有するため、種々のイベントを開催しました。*Economic History Review* 誌編集長のパトリック・ウィリス氏、古代ローマ史・エジプト史家のキャサリン・ブルーアン氏など、海外研究者を招いたイベントも実施しました。

【企画・運営】【Writing Abstracts】春日あゆか（京都大学）、川本悠紀子（同志社大学）、柴田広志（佛教大学）、山本浩司（東京大学）【国際学会へ行こう】赤江雄一（慶應義塾大学）、高橋亮介（首都大学東京）、正木慶介（早稲田大学）、山本浩司（東京大学）【迷える子羊たちのために】木下知威（日本社会事業大学）、櫻田宗紀（東京大学・院）【バズる（？）アウトリーチのすすめ】中辻柚珠（京都大学・院）、吉田瞳（京都大学・院）【若手・中堅のための英語論文ワークショップ】大塩量平（大東文化大学）、小島庸平（東京大学）【論文を国際ジャーナルに載せるには】山本浩司（東京大学）【ラウンドテーブル・ディスカッション／国際ワークショップ】高橋亮介（首都大学東京）

・ Writing Abstracts in English（2016年9月8日、於京都大学、参加者2名）

・ 国際学会へ行こう: Making the most out of conferences（2017年9月24日、於東京大学、参加者40名）

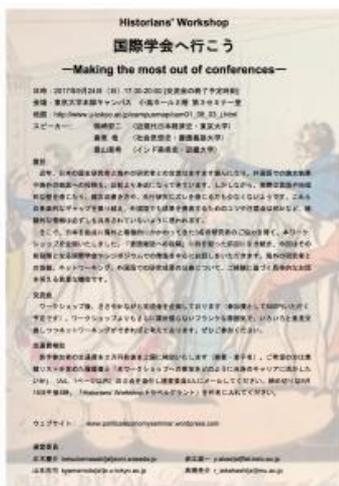
講師：岡崎哲二（東京大学）、豊山亜希（近畿大学）、壽里竜（慶應義塾大学）

・ 迷える子羊たちのために 論文執筆の処方箋（2018年9月9日、於東京大学、参加者26名）

講師：隠岐さや香（名古屋大学）、青谷秀紀（明治大学）、Tak.（ライター）

・ バズる（？）アウトリーチのすすめ：公益性のある情報発信に向けて（2019年7月22日、於東京大学、参加者57名）

講師：北村紗衣（武蔵大学）、古川萌（東洋大学）、丸尾宗一郎（講談社）



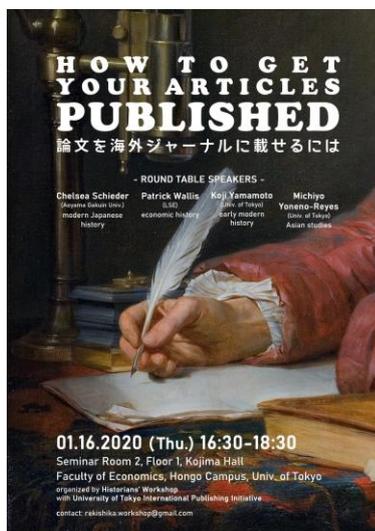
・若手・中堅のための英語論文ワークショップ（2020年1月12日、於東京大学、参加者19名、政治経済学・経済史学会・経営史学会・社会経済史学会との共催）

ゲストコメンテーター：パトリック・ウォリス（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス）

発表者：掘井誠史（神戸大学）、井上達樹（東京大学）、佐藤秀昭（住友史料館）、五十嵐英梨香（東京大学）

・論文を国際ジャーナルに載せるには（2020年1月16日、於東京大学、参加者27名、東京大学英文図書刊行支援事業 UT-IPI との共催）

講師：チェルシー・シーダー（青山学院大学）、パトリック・ウォリス（ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス）、山本浩司（東京大学）、米野みちよ（東京大学）



・ラウンドテーブル・ディスカッション「西洋古代史・中東史研究の国際化にむけて」（2020年2月17日、於東京大学、参加者15名）

話題提供者：キャサリン・ブルーアン（トロント大学）

コメンテーター：ギリシュ・ダスワニ（トロント大学）、熊倉和歌子（東京外国語大学）

・国際ワークショップ「前近代エジプトおよび周辺地域の環境と経済」（2020年2月22日、於東京外国語大学、参加者11名）

登壇者：キャサリン・ブルーアン（トロント大学）、加藤博（一橋大学）、熊倉和歌子（東京外国語大学）、高橋亮介（首都大学東京）、浦野聡（立教大学）、三橋咲歩（奈良女子大学）

特別ワークショップ

日本西洋史学会の年次大会に合わせて下記の特別ワークショップを実施しました。

【企画・運営】【2016年度】赤江雄一（慶應義塾大学），春日あゆか（京都大学），正木慶介（早稲田大学），山本浩司（東京大学）【2017年度】佐々井真知（中部大学），正木慶介（早稲田大学）【2018年度】正木慶介（愛知県立大学），松本涼（福井県立大学）【2019年度】市川佳世子（慶應義塾大学），高橋亮介（首都大学東京）

・ **How to get published：博論から英語モノグラフへ**（2016年5月22日、於慶應義塾大学・第66回西洋史学会、参加者45名）

講師：山口みどり（大東文化大学），真保晶子（芝浦工業大学）

・ **Skills workshop: How to get your articles published**（2017年5月21日、於一橋大学・第67回西洋史学会、参加者45名）

講師：鶴島博和（熊本大学），大場はるか（久留米大学），高橋亮介（首都大学東京），山本浩司（東京大学）

・ **ランチタイム・ワークショップ「国際学会を有意義なものにするために」**（2018年5月20日、於広島大学、第68回西洋史学会と共催、参加者100名）

講師：木村容子（大阪市立大学），藤井崇（関西学院大学），剣持久木（静岡県立大学）

・ **ワークショップ：国際発信とキャリア形成**（2019年5月19日、於静岡大学、第69回西洋史学会と共催、参加者18名）

問題提起：隠岐さや香（名古屋大学），ファシリテーション：鳥谷真佐子（慶應義塾大学）

ウィークリー・ライティング・グループ

欧米の研究拠点において広く取り入れられているピアサポートのしくみに倣い、ライティング・グループを開催しています。数名ずつの参加者が毎週特定曜日に東京大学／国際基督教大学に集まり、各自の進捗と当日の目標を発表した後、ライティング（もしくはリサーチ）に50分間集中しては10分休憩を取ることを繰り返し、次回までの課題を報告して散会します。

【企画・運営】市川佳世子（慶應義塾大学），櫻田宗紀（東京大学・院），川口航史（東京大学），篠田知暁（東京大学），槇野翔（東京大学・院），山本浩司（東京大学）

Tokyo Digital History

Tokyo Digital History は、歴史家ワークショップの一部として、2018年より大学院生を中心に活動を始めた研究グループです。数々のイベントを実施して、歴史研究のためのデジタルメソッドの可能性を探ってきました。

【企画・運営】小風尚樹（東京大学・院）

・ Film Night 1 「マルタン・ゲールの帰還」 (2017年6月30日、於東京大学、参加者13名)

・ Film Night 2 「薔薇の名前」 (2017年10月26日、於東京大学、参加者5名)

・ Film Night 3 「The Physician (千年医師物語)」 (2017年11月30日、於東京大学、参加者7名)

講師：篠田知暁 (東京大学)

・ Historians' Meet-up1 : ポットラックパーティ (2017年12月21日、於東京大学、参加者10名)

・ Film Night 4 「1984」 (2018年3月23日、於東京大学、参加者10名)

・ Historians' Meet-Up2 「お花見」 (2018年4月1日、於代々木公園、参加者14名)

・ Film Night 5 「ショコラ」 (2018年4月24日、於東京大学、講師1名、参加者10名)

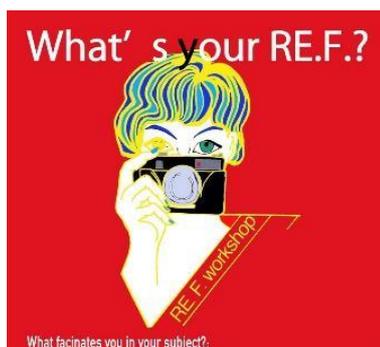
講師：館葉月 (武蔵大学)

・ Film Night 6 「ウィンスタンリー」 (2018年5月24日、於東京大学、講師1名、参加者10名)

講師：菅原未宇 (明治大学)

・ RE.F. Workshop 2 : Who Are Historians? 「歴史家」とは誰を指すのだろうか? (2018年7月1日、於東京大学、参加者45名)

講師：北村紗衣 (武蔵大学), 坂本邦暢 (明治大学), 佐藤空 (東洋大学)



#2 'Who Are Historians?'
: 「歴史家」とは誰を指すのだろうか?
7.1 (SUN) 14:00 START
@東京大学本郷キャンパス 小島ホール1F第1会議室
<ゲスト>
北村紗衣さん (武蔵大学: シェイクスピア・舞台芸術史)
坂本邦暢さん (明治大学: ルネサンス哲学史・科学史)
佐藤空さん (東洋大学: 近世/近代イギリス思想史)
共催 Historians' Workshop/ Tokyo Digital History/ 歴史コミュニケーション研究会

最新の歴史研究の知見を社会に還元するため、参加型ワークショップや連続講座を企画・開催しました。英米圏のアカデミアで重視されつつあるパブリック・エンゲージメントの、ボトムアップの取り組みです。

国立西洋美術館での展覧会にあわせた講演会シリーズは若手研究者が時代背景を解説し、知ることで展覧会をさらに楽しむことができるプログラムとして好評を博しました。「史料読解ワークショップ」では研究者による対談の後、大学生や在野の研究者、高校教員など幅広い層の参加者が実際に史料の読解作業を行いました。入門セミナー「西洋経済史・経営史のこれまでとこれから」では経済史上著名な人物の思想や知的伝統を概観し、経済史がどのような問いを立てて発展してきたかを聴衆とともに探りました。思想史・社会史を専門とする研究者を講師に迎えたラウンドテーブル「Origins of Market Analysis in Global Perspectives」は社会の注目を集め、テレビ局の取材を受けました。

【企画・運営】【講演会】古川萌（壺屋めり, 東京藝術大学）【史料読解ワークショップ】市川佳世子（慶應義塾大学）、中山恵（東京女子大学・院）、山本浩司（東京大学）【入門セミナー／ラウンドテーブル】山本浩司（東京大学）

・講演会1「ミケランジェロと理想の身体」展を3倍楽しむ。(2018年8月18日、於東京大学、参加者62名)

講師：原基晶（東海大学）、壺屋めり（東京藝術大学／日本学術振興会）

・講演会2「ルーベンス展—バロックの誕生」を3倍楽しむ。(2018年11月11日、於東京大学、参加者55名)

講師：小松浩之（京都外国語大学）、壺屋めり（東京藝術大学／日本学術振興会）

・史料読解ワークショップ1「裁判記録とラブレター」(2019年7月8日、於東京大学、参加者35名)

講師：藤野裕子（東京女子大学）、小野寺拓也（東京外国語大学）



・入門セミナー「西洋経済史・経営史のこれまでとこれから」（2019年8月28日、於東京大学、参加者19名）

講師：山本浩司（東京大学）

・ラウンドテーブル「Origins of Market Analysis in Global Perspectives」（2019年9月21日、於東京大学、参加者32名）

講師：ジャコモ・トデスクーニ（トリエステ大学）、ジェイコブ・ソール（南カリフォルニア大学）

パネリスト：川出良枝（東京大学）、大黒俊二（大阪市立大学）、佐藤公美（甲南大学）、山本浩司（東京大学）

・講演会3「ハプスブルク展」を4倍楽しむ。（2019年12月21日、於東京大学、参加者187名）

講師：川上恵理（兵庫県立美術館）、山田のぞみ（本郷新記念札幌彫刻美術館）、岩崎周一（京都産業大学）

The poster features three portraits of Habsburg figures. The central text reads 「ハプスブルク展」を4倍楽しむ。 (Enjoy the Habsburg Exhibition 4 times more). The three talks are:

- [Talk 1] 皇帝と宮廷芸術家 — ルドルフ2世とスプランゲル 川上恵理 (兵庫県立美術館)
- [Talk 2] スペイン・ハプスブルク家のパトロン — グニスタリアとベラスカス 山田のぞみ (本郷新記念札幌彫刻美術館)
- [Talk 3] ハプスブルク帝国 — 近世から近代へ 岩崎周一 (京都産業大学)

2019年12月21日 Sat. 13:00-19:00
東京大学本郷キャンパス小島ホール2F コンференツルーム
会場変更：国際学術総合研究棟 2F 第6教室
聴講無料／要参加申込／懇談会有
主 催：東京大学経済学研究所・歴史学ワークショップ
http://historianworkshop.org/
お問い合わせ：古川 貴/山本 浩司
(rekishika.workshop@gmail.com) 参加申込はこちら